

〇はじめに

長期総合計画は奥多摩町の未来をみんなで作るための設計図です。この設計図を役場だけではなく、町内外の住民等と一緒につくっていきましょう。まずは、奥多摩町の「これから」を考えるうえで、「これまで」のことを学びましょう。

第5期奥多摩町長期総合計画とは？

(以下、5期長計といいます)

【1.当時の町の状況と計画決定までの経緯】

かつては、法律（地方自治法）により計画決定が義務でしたが、平成23年に改正され計画決定は任意となりました。役場は、引続き、最上位計画として、多くの住民の意見や提案を反映した上で決定、議会の承認を得ています。計画決定までの経緯は次のとおりです。

- ①50人の住民で組織された「まちづくり計画住民委員会」で議論し、将来像やテーマごとに役場へ提言
- ②5期長計策定委員会（役場管理職職員）で議論
- ③パブリックコメント・タウンミーティング（住民の参加）を実施
- ④平成26年12月町議会において「奥多摩町基本構想」として決定



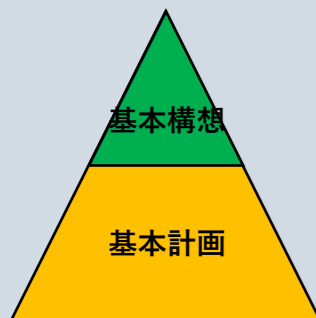
【2.計画の目的と役割】

社会・経済の状況や住民の考えを踏まえ、平成27年度から令和6年度を目標年度とする10年間の役場が行う業務（役場の最上位計画）、住民・各団体等のまちづくりの考え方を示したものです。

長計のまちづくりとは、住民等の生活向上のため、今の「まち」をより良い「まち」に「つくり」変えていく、持続的な活動のことで

住民の生活（暮らし）との関係例：保健、ごみ、学校教育、地域産業、住まい…

【3.計画のかたち】



5期長計は「基本構想」、「基本計画」で構成しています。

基本構想は、まちづくりの将来目標（将来像）を実現するため、5テーマ（①健康・福祉、②生活・環境、③教育・文化、④観光・産業、⑤行財政）の方向性を示したものです。

奥多摩町の将来像 人 森林 清流 おくたま魅力発信！  
～住みたい 住み続けたい みんなが支える癒しのまち 奥多摩～

基本計画は、基本構想実現のための具体的な対策の方向性とそれぞれの対策の進み具合を把握するために基準を設けています。

基準例：空家バンクに登録された物件の活用数  
基準（平成26年度）：延べ18件⇒目標（令和6年度）：延べ45件

5期長計の評価と状況

【1.計画の進み具合の評価・状況】

5期長計では、前期5か年・後期5か年の進み具合について、住民と役場の両面から評価を実施しました。住民評価は、令和5年7月にまちづくり住民アンケート調査を無作為抽出した住民1,000人に実施し、378人からの回答結果を評価としました。役場評価は各対策の進み具合を把握するため設けた基準を担当課において評価しました。なお、進み具合の評価を行う基準は、計画決定時と社会状況やまちの状況が変わり、基準として適さないことがあります。



【2.住民の意見について】

直近のまちづくり住民アンケートでは、各設問に対する回答で、多くの共通点がありました。

- ・重要である対策：「自然とともに歩むまちづくり」、「誰もが元気で健康に暮らせる地域づくり」、「高齢者が生きがいをもって暮らせる地域づくり」
- ・将来望ましい町：「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」
- ・町をイメージするキーワード：「自然」、「山」、「水」

【3.テーマ別の評価・状況】

テーマ別に住民評価や役場評価の傾向を捉え、若手職員で重要度が高いと感じた課題などを整理しました。

( )内はテーマに関するキーワード

①健康・福祉

(キーワード：健診、検診、医療、保健、子ども・子育て・高齢者・障がい者・未婚者支援など)

住民評価では、対策の満足度・重要度が高く、他テーマとの比較でも高い傾向です。健康・福祉は住民の生活に欠かせないテーマであると考えられます。

役場の評価であまり進んでいないとされた「入院・外来患者数」、「生涯安心して暮らせる制度の推進」、「ふれ愛サポート事業の新規登録者数」、「生きがいがあると思う方の割合」、「障がい者就労サポート事業の相談件数」など課題が残る対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は「生涯安心して暮らせる制度の推進」です。住民の健康づくりを目的とした予防医療である特定保健指導や健康づくり事業を実施していますが、効果はすぐに出ないため継続していく必要があります。



裏面に続きます

# 奥多摩町の「これまで」について

～第5期奥多摩町長期総合計画のまとめ～

作成：役場若手職員ワーキンググループ

## ②生活・環境

(キーワード：保全・美化、ごみ、道路、公共交通、上下水道、コミュニティ、男女共同、防犯・防災など)

住民評価では、自然の保全・美化、ごみ関係対策の満足度が**高い**傾向にあるものの、道路の維持補修、**公共交通**、男女共同参画、防災体制、防犯対策関係は満足度が**低く**、重要度が**高い**傾向です。

役場の評価であまり進んでいないとされた「**利用しやすい交通手段の充実**」、「町が設置する委員会等への女性の参画割合」、「町総合防災訓練への参加率」、「防犯巡回指導への参加率」など課題が残る対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は住民、役場の両面から課題として挙がっている「**町の公共交通**」です。町には、鉄道と路線バスがありますが、都心の公共交通と比較した場合、**本数が少ない**、交通手段が限られているなどの理由が考えられます。なお、町の鉄道の本数は他地域と比べ、**少なくない**状況です。

### 【町と他地域の鉄道事例】

自治体名	東京都奥多摩町	千葉県鴨川市	群馬県長野原町	茨城県ひたちなか市
人口	4,621人	約30,600人	約5,300人	約154,000人
鉄道名称	JR東日本青梅線	JR東日本内房線	JR東日本吾妻線	ひたちなか海浜鉄道
駅名	奥多摩駅	安房鴨川駅	長野原草津口駅	阿字ヶ浦駅
運行時間帯	5時～24時	6時～22時	7時～21時	4時～23時
平均運行本数	39分に1本	64分に1本	88分に1本	40分に1本
1編成	4両	2両～4両	4両	2両

## ③教育・文化

(キーワード：生涯学習、青少年、多文化交流、スポーツ、郷土芸能、芸術、文化財など)

住民評価では、対策の満足度が**高い**傾向です。

役場の評価であまり進んでいないとされた「**生涯学習の推進**」、「奥多摩ならではの教育の実施」、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査小中合計点」、「郷土芸能ホームページへのアクセス件数」など課題が残る対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は「**生涯学習**」です。放課後子供教室、スポーツ活動の推進、語学教室、海外派遣、森林セラピーなど様々な事業を実施していますが、その事業が生涯学習だという認識があるのかが不明確であり、多様化しているため、きめ細かな周知が必要です。



## ④観光・産業

(キーワード：アウトドア、宿泊、森林整備、農林水産物、有害鳥獣、起業・企業誘致、内水面漁業など)

住民評価では、観光客数を基準とした対策の満足度が**高い**傾向にあるものの、**森林整備**、**木質資源活用**、**農林水産物生産・出荷・販売**、**起業**、**グリーン・ツーリズム**、**情報発信関係**は満足度が**低く**、重要度が**高い**傾向です。

役場の評価でも住民評価と同様にあまり進んでいないとされた「木材買取制度による原木買取量」、「治助イモ種芋生産量」、「食肉用シカ肉処理量」、「テントショップの開設店舗数」、「グリーン・ツーリズム参加者数」、「観光協会ホームページアクセス件数」などの対策がありますが、計画決定時からの状況が変わり、基準として適していないことが考えられます。

若手職員で検討した重要な課題は「**観光**」と「**産業**」です。観光についてはオーバーツーリズムによる観光ごみなどの様々な問題への対策、産業については採用募集はあるものの、職種が少ない地域産業ですが、持続可能な産業(雇用)をどう生み出すか、自然や観光に限定しない考えが必要です。

## ⑤行財政

(キーワード：少子化・定住化、空家活用、地籍、町営住宅、官民協働、役場組織・職員、広域連携、電子システム、広報など)

住民評価では、財政関係対策の満足度・重要度が**高い**傾向にあるものの、**定住化**、官民協働、役場組織・職員、情報化関係は満足度が**低い**傾向です。

役場の評価であまり進んでいないとされた「職員の対応等に満足している住民の割合」、「情報システムのコスト削減」などの対策もあります。

若手職員で検討した重要な課題は「**定住化**」です。住民評価は低い傾向であり、町の重点事業として実施しているため認知度や期待が高いことが考えられ、役場の評価が高い傾向は基準としている数値が生産年齢や年少の人口としているため、差があります。

## 5期長計のまとめ



### 【まとめ】

住民の意見や提案を反映した5期長計は、まちづくりの将来目標を実現するため5テーマの様々な対策を行ってきました。

若手職員の私たちは、住民評価で満足度の高い対策があるものの、満足度が低く課題が残る対策もあることを知り、役場でも様々な対策について、基準をもとに評価を行っておりますが、その基準が計画決定時から現在までの間に、社会状況やまちの状況が変わり、基準として適していないこともありました。

5期長計の10年では、急激な人口減少や超高齢化の問題に対して少子化・定住化の対策を行い、予想された人口減少数よりも緩やかな状態となる等、一定の効果があったものの、この問題は解消されることがありません。一方、台風や大雪などによる自然災害、新型コロナウイルス感染症の流行など前例のない中でも対策を行ってきました。

さらに、ものごとの複雑化・多様化が進んでいる現代では、限られた財源と職員ですべての対策を行うことは、とても難しい状況です。

住民皆様をはじめこの町と関わりのある皆様と奥多摩町の「これから」を一緒に考えていきましょう。